文部科学省
地(知)の拠点

COC+共育型インターンシップ
ワーキンググループ
2016年度報告書

2017年3月

青森COC+推進機構
教育プログラム開発委員会
共育型インターンシップ　ワーキンググループ
（主査校：青森中央学院大学）

報告書の要約

これまでの活動概要

- COC＋事業開始1年目の2015年度は事業の「方向感」を共有し、最初の一歩として「何をやるか」「何ができるのか」の検討で精一杯であった
- 2年目の今年度は「試行錯誤による挑戦」と位置づけ、共育型インターンシップと胸を張って言えることに、地域の企業と協働で挑戦できたことに感謝致します

2016年度活動成果と課題

- NHK青森放送局、青森テレビ、若山経営と一緒に共育型インターンシップに挑戦でき、「共育」というコンセプトに恥じない成果がでている
- 現在大学教育で期待されているアクティブラーニング科目（地域探求・探索アクト）が開講され、共育型インターンシップの一翼を担うことになった
- 地域や企業への浸透を狙いフォーラムを開催したものの、地域や企業、学生への浸透やインセンティブ、負担感が課題として依然残っている

2017年度以降の活動

- 今年度実施事項の進化と総合化を図ると同時に、地域への浸透を目指す

（注）本報告書は共育型インターンシップワーキンググループの立場で活動をまとめたものである

© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

報告書の構成

1.活動概要
1－1　活動経緯・・・3
1－2　推進体制・・・3
2.基本方針
2－1　基本的考え方・・5
2－2　実施状況と想定されたメニュー例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
2－2　進捗イメージ・・6
2－3　ワーキンググループの役割とゴールイメージ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
3.実施結果と課題
3－1　フォーラム・・・8～10
3－2　共育型インターシップ
（1）NHK青森放送局・・11～12
（2）株式会社若山経営・・・13
（3）株式会社青森テレビ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14～15
（4）地域密着アクトⅠ・Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15～16
（5）地域探求アクトⅠ・Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16～17
3－3　共育型インターンシップ事前擦り合わせ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
3－4　今後の課題・・・18
4.　今後の進め方・・20
5.　参考資料　ガイドブック　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21～30

© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

1. 活動概要

© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

1－1 活動経緯

活動経緯

- ワーキンググループ（W/G)活動を始めた初年度の2015年度は、メンバー間で方向感の共有とメニューの検討という「企画立案」を実施した
- 「試行錯誤による挑戦」の時期である2年目の2016年度は、地域の企業との協働により数件の共育型インターンシップの試行を行った
- W/G会議は2回行いメンバー間で問題意識やゴールイメージを共有し、インターンシップの具体化を進めた

実施事項			2015年度		2016年度											
			企画立案（方向感）		試行錯誤による挑戦											
			2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
行事・イベント			春休み						夏休み						春休み	
会議	教育プログラム委員会		19				実施内容の整理				実施内容の整理				16	
	W／G			9　23			3						21			
イベント	共育型シンポジウム			3												
	COC+シンポジウム															
	企業向け共育インターシップフォーラム			11								4				
共育型インターンシップ	弘前B	田舎館村インターンシップ			25											
		企業共育型企画提案・実施－1										募集・選考・準備			実施・報告	
		企業教育型企画提案・実施－2														
	八戸B	企業共育型企画提案								検討						
	むつB	地域共育型企画提案								検討						
	青森B	NHK（青森市）			調整・企画立案				実施							
		青森テレビ					調整・企画立案						準備・実施			
		若山経営（青森市）					調整・企画立案						準備・実施			
		アクティブラーニング1（授業）														
		アクティブラーニング2（授業）														
		（青森中央学院大学）														

© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

1－2 推進体制

推進体制

- W/Gでは共育型インターンシップ・プログラムについて検討を行った
- 実施プログラムの問題点の相談など、会議以外にも活動を行った
- 事務局は青森中央学院大学COC＋推進チーム（佐藤BC、越膳C）

所属・職名	氏　名
青森県企画政策部企画調整課基本計画推進G主幹	楠美　太助
青森市市民政策部政策推進課長	船橋　正明
青森中央学院大学キャリア支援センター長・教授	塩谷　未知
青森中央学院大学地域連携センター長・教授	高山　貢
八戸工業大学学務部次長・准教授	小玉　成人
NPO法人プラットフォームあおもり理事長	米田　大吉
青森商工会議所中小企業相談所長	齋藤　尚
株式会社青森銀行　地域振興部　地域振興課長	鈴木　淳司
株式会社みちのく銀行　人事部副部長兼人財開発室長	山内　雅史
株式会社大坂組　代表取締役社長	大坂　憲一
（オブザーバー）	
株式会社若山経営　執行役員経営支援室部長	千葉　裕仁
青森中央学院大学経営法学部　講師	奥村　俊樹

© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

２. 基本方針

© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

2－1 基本的考え方

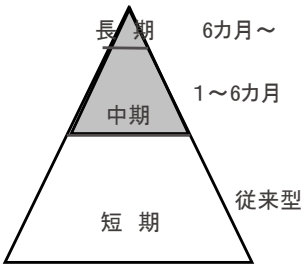
基本的な考え方

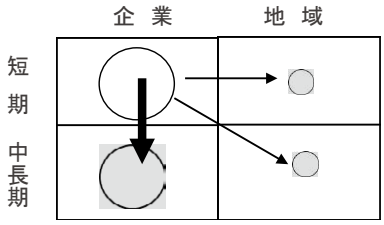
● 多様な学生、多様な企業や地域、柔軟で多様なプログラム

共育型インターンシッププログラムの方向感

- 従来型 → 従来型+共育型の共存
- 短期 → 中期（1～6カ月）+長期（6カ月～1年）
- 見学+体験型 → 問題解決（課題挑戦）型
- 事前説明+日誌 → 事前学習+期間学習+事後学習・議論など
- 大学+企業 → 大学+企業+地域+NPO等
- 大学単独 → 地域の大学連携、地域連携・情報交流
- 学生自己負担 → 自己負担+プロジェクト費用

方向感のイメージ





© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

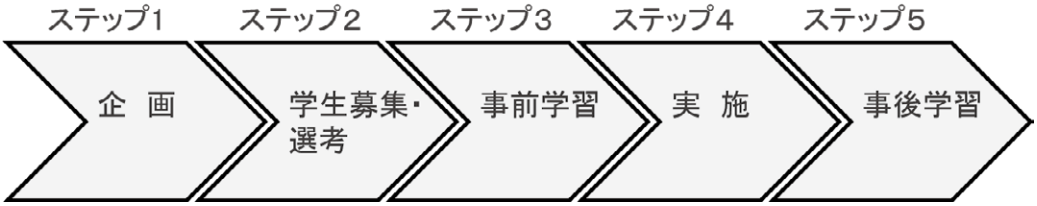
2－2 実施状況と想定されたメニュー例

実施状況およびメニュー例

：青森中央学院大学で実施（予定）

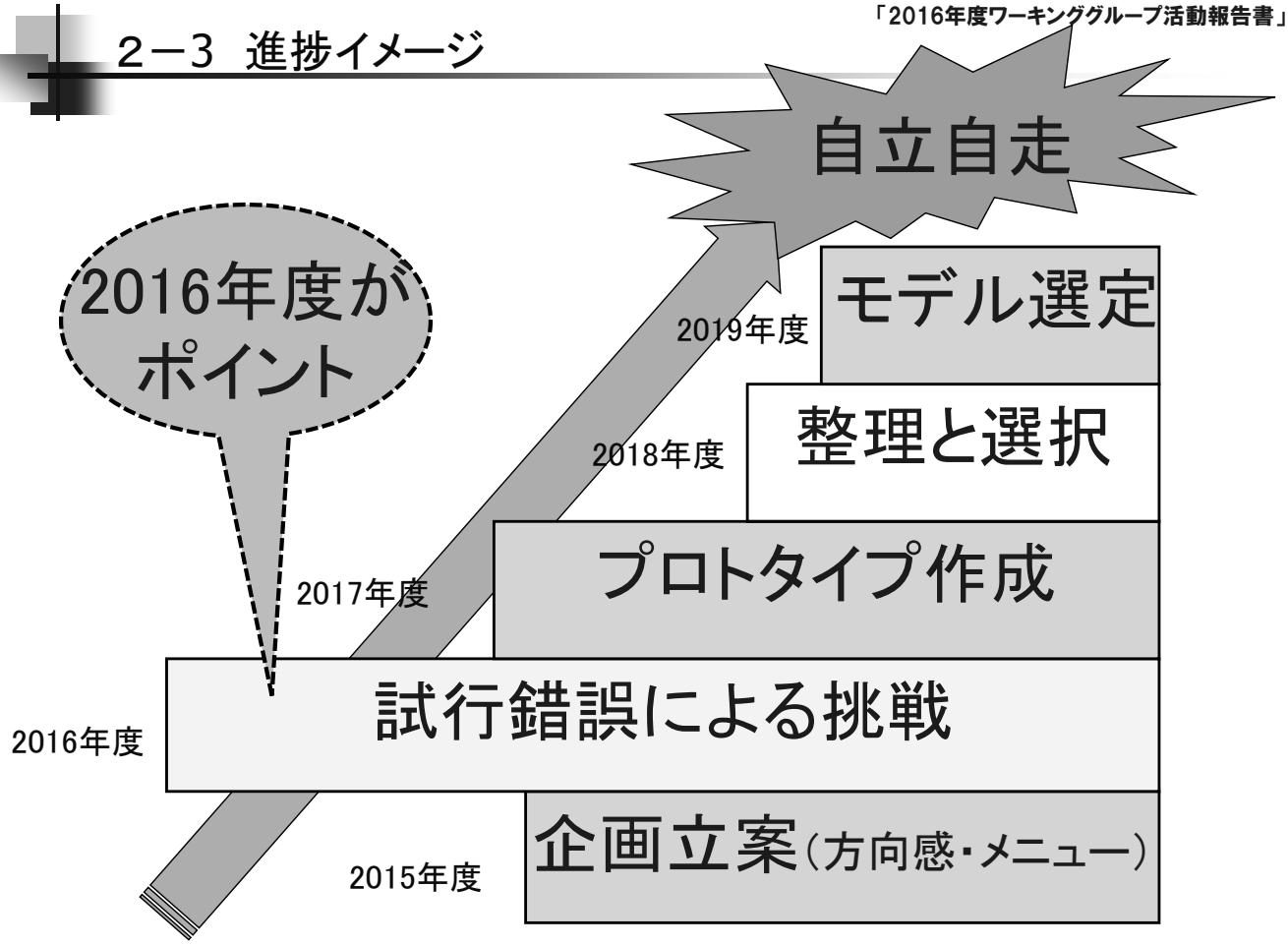
		メニュー（実施および予定・検討例）	概要	青森中央学院大学の取組み
短期（1週間程度）	実施	体験	従来型インターンシップ	キャリア支援センター 現在は単位化は考えていない
		見学型		
中期（1カ月～6カ月）	実施（予定）	NHK：青森発ドラマのSP支援	青森発ドラマの学生目線でのSPの企画実行（1カ月）	COC+推進チーム 単位化
		青森テレビ：情報提供番組【わっち!!】への提案	地域に「つながる」仕組み・番組コンテンツ提案（1カ月）	
		若山経営：魅力ある県内企業になるには	青森市内の企業の実態調査と魅力アップ提案（1カ月）	
		地域滞在型観光プラン企画立案		（弘前ブロック）
		新規営業活動企画立案		
	メニュー例	ビジネス人や地域の人たちのWS		
		HP作成やブラッシュアップ、合同企業説明会支援		
		新卒採用ツールや会社案内作成		
		新人入社案内資料作成・研修企画		
		企業説明会の協働企画と参加		
		ビジネスコンテストへの協働参加		
		地域資源の分析と新商品・サービス企画		
長期（6カ月～1年）	実施（予定）	アクティブラーニング科目との連動	消費者教育、自分史・社史作成	地域密着・探究アクト2科目 単位化
		地域共育型インターンシップ	地域の魅力発掘と情報発信	（弘前ブロック）
	メニュー例	新商品・新事業・新販路企画開発		
		社内資料やデータの整理と問題点整理		
		インタビューおよび資料調査によるSWOT分析		
		共育型インターンシップの開発		

ステップ1から5をきちんと行うのがポイント



© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

2－3 進捗イメージ



© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

2－4 ワーキンググループの役割とゴールイメージ

W/Gの役割

- PDCAのうちのP＆C
  - 継続できることを現実的に考えて推進

2016年度ゴール

- 共育型インターンシップの試行
  - 県内参加校での従来型インターンシップおよび共育型インターンシップの事例収集と整理
  - 共育型インターンシップ試行と実施結果の整理

W/G参加メンバーの役割

- ご協力企業の掘り起こしとさまざまな提案

推進体制

- 事務局は青森中央学院大COC+推進チーム

© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

3. 実施結果と課題

© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

3－1 フォーラム（1）

企業向け共育型インターンシップフォーラム

- 2016年11月4日（金）13:30～17:00 ホテル青森4階 「錦鶏の間」

実施目的

- COC＋事業は2年目に入ったものの、地域の企業の皆さんへの説明が不十分で浸透していない
- COC＋事業にとって重要な共育型インターンシップの実施には、地域の企業の皆さんの協力が生命線である
- 共育型インターンシップが、地域に提案されている背景と目的を説明する
- 実際の実施事例について報告し、共育型インターンシップについての理解と協力をお願いする
- 実際に実施するにあたっての課題を共有する

実施概要

- COC＋事業概要説明～これまでの成果と今後の展開について
- 事例紹介
  - 株式会社 青森テレビ ～共育型インターンシップ導入の狙い
  - 株式会社 若山経営 ～COC＋事業における当社の取り組み
- ワークショップ

© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

3－1 フォーラム（2）

実施内容（その1） COC＋事業概要説明～これまでの成果と今後の課題について
弘前大学 副理事（企画担当） 教授 曽我 亨

（弘前大学COC事業）
- 近年の大学改革と「地（知）の拠点」事業
- 「地（知）の拠点（COC）整備事業、大学COC事業に採択（2014年度）
- 地域志向大学改革宣言（学長宣言）
- 地域を志向する教育改革（地域が教材、地域が教室、地域が教員）
- 地域志向型人財の育成、正課外の共育プログラムの充実

（オール青森COC＋事業）
- 青森県の課題（人口減少など）、現実的な課題（県内就職率の伸び悩み）
- 現実的な課題の解決へ（“オール青森”の必要性）
- COCからCOC＋へ（”オール青森”で取り組む「地域創生人財」育成・定着事業）
- オール青森ネットワーク（弘前・青森・八戸・むつの各ブロックの連携）
- 青森COC＋推進機構の設立（2015年度）

（具体的取り組みと目標）
- 青森COC＋事業の取組（ブロック事業、教育プログラムの開発、雇用創出連携PJ）
- 期待される効果（若者の県内定住と地域活性化）、県内就職率を5年間で10%向上

© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

3－1 フォーラム（3）

実施内容（その2－①） 共育型インターンシップ導入の狙い
株式会社 青森テレビ 報道制作局次長 成田 克彦

- 視聴率低迷、マンネリ化、ローカル局の使命として「夕方のワイド番組【わっち!!】誕生。【わっち!!】を核にした挑戦的な取り組みを考える

（ガイドブックをベースに共育型インターンシップのプロジェクト設計）
- プロジェクト設計-1：経営者が本気で挑戦したいこと
  - 地域の多様なコミュニティが情報で「つながる」ことで、地域の活力や多様性を創り出し将来を創生。学生と共に【わっち!!】の新年度のコーナーを企画・制作
- プロジェクト設計-2：課題と解決のための仮説を確認
  - 【わっち!!】を核に、多様なコミュニティが「つながる」社会を創るというビジョン
  - 現状からビジョン・将来像に向けての課題、施策の仮説、1年後のゴール設定
- プロジェクト設計-3：仮説検証の繰り返しに必要なプロセスの洗い出し
  - 1年後までに実現したいこと（例：番組視聴率№1）、誰が実行するか
- プロジェクト設計-4：期間を区切り、明確な成果目標を設定する
  - 1年後、【わっち!!】をプラットフォームに地域に「つながる」仕組みができる
- プロジェクト設計-5：具体的な活動内容と期待する役割を設計する
  - 1週間目→2週間目→3週間目→4週間目→ゴールのロードマップ作成
  - ゴールは具体的な番組コンテンツの提案

© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

3－1 フォーラム（4）

実施内容（その2－②） COC＋事業における当社の取り組み
株式会社 若山経営 執行役員 千葉 裕仁

（若山経営の概要）
- 経営者の伴走者として企業への専門サービス提供
- セミナー（研修、講習、イベント企画）、人材育成研修
- これまで15年以上の長きにわたって、高校生・大学生の短期インターンシップ実績

（COC＋事業における共育インターンシップ）
- スケジュール
  - 第1週：ゴールと進め方の課題意識の共有、青森市内の複数企業の訪問調査
  - 第2週：業界動向調査、調査内容の整理と課題抽出、有効な支援策検討
  - 第3週：魅力ある企業の定義、学生の志望企業の傾向と比較し議論する
  - 第4週：調査結果とテーマに対する一定の検証結果をまとめる
- アウトプット
  - 県内企業の実態調査
  - 企業が抱えている課題や解決策を検討
  - どのような解決策が想定されるか
  - 魅力ある県内企業とは
  - 就活学生に広報する、優秀な人材を県内に留める！

© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

3－1　フォーラム（5）

実施内容（その3）　ワークショップ
共育型インターンシップの流れおよび全体のプログラム設計について
～「学生と共に育つ企業のためのガイドブック」の活用
NPO法人プラットフォームあおもり　理事長　米田　大吉

（イントロダクション）
- 共育型インターンシップの定義、インターンシップにおける位置づけ
- 共育型インターンシップの進め方について

（ワークショップ）
- 産官金学の参加者が数名ずつのグループに分かれ、ワークショップを実施した

（ワークショップの感想・他）
- メンバーの企業をモデルケース、あるいは仮想モデル企業をベースに進めた
  - 定住促進の意味からも学生が地元企業を知るのは良いこと
  - 長期インターンシップの仕組みづくりが重要なのではないか
  - ワークショップにより、プロジェクト設計の方法を知ることができた
  - ワークショップによりビジョンのつくり方を学ぶことができた
  - ビジョンやゴール、実行のための工程表が大事だと思った
  - やはり、共育型インターンシップは企業の負担が大きいと思った

© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

3－1　フォーラム（6）

フォーラムの状況

COC＋事業概要説明

ワークショップの説明

事例紹介の様子

© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

3－2共育型インターンシップ（1）

（1）NHK青森放送局-1

実施概要

- 参加学生：青森中央学院大学経営法学部　2年生1名、3年生3名

- インターンシップ期間
  - 事前学習（プレ・オリエンテーション）：2016年5月28日（土）、6月3日（金）
  - 実施期間：2016年8月4日（木）～9月2日（金）

- プログラム構成
  - 青森発地域ドラマ「進め！青函連絡船」の広報業務
  - 放送事業についての研修
  - 番組制作業務

目標設定

- 9月21日（水）放送「青森発地域ドラマ『進め！青函連絡船』」の認知度向上と視聴者の獲得
- 若者のNHK接触率の向上

© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

「2016年度ワーキンググループ活動報告書」

3－2共育型インターンシップ（1）

（1）NHK青森放送局-2

内容（その1）

- week0（5月28日、6月3日）
  - プレ・オリエンテーション（顔合わせ、スケジュール共有）
  - ドラマロケ見学（ラーメンショップ幸畑店、八甲田丸）
- week0.5（8月4日）
  - 青森ねぶた祭りでNHKねぶた運行・広報物配布の実施
- week1（8月8日、9日、10日）
  - オリエンテーションにより目的の再確認、ゴールの明確化と共有
  - インターン生は一歩外に出れば「NHKの人」なのでNHKの基本を学ぶ
  - 放送業界の仕事の理解を深めるために局内探検ツアー
  - プロモーション課題設定①現状把握　②課題改善の方向性　③企画立案
  - NHKの書式を使用して企画書（PR提案票）を実際に作成
  - NHKの管理職員に提案しアドバイスと修正
- week2（8月16日、17日）
  - 青函連絡船を知らない若者代表として、青森から函館までフェリーで移動し、当時の旅を疑似体験し、2日間にわたって函館取材
  - 「海峡ラーメン」取材中やフェリー移動中にはNHK公式Twitterで情報発信

© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

3－2共育型インターンシップ（1）

（1）NHK青森放送局-3

内容（その2）

- weeK3（8月24日、25日、26日）
  - 青森駅前取材、八甲田丸取材
  - ホームページのコンテンツ文書作成
- week4（8月30日、31日、9月1日、9月2日）
  - 番組を作ろう！①心構えを準備　②取材・ロケ　③構成・編集④完プロ・送出
  - 「あっぷるワイド」テレビ出演、「アップルラジオ」出演
  - まとめとディスカッション

成果とまとめ

- プロモーション用HPやPRのためのVTR作成、Twitterフォロワー240人に対し40人増
- インターン生の声
  - 将来の目標や職業選択の視野が広がった。リーダーシップの大切さと難しさを学んだ。インタビューの面白さと難しさ、事前準備の大切さを知ることができた
  - アルバイトは”できること”だけ、インターシップは”できないこと“に挑戦できる
- 受入れ企業担当者の声
  - 最初は不安を感じたが、次第に積極性と自分の役割と責任の自覚が出てきた
  - NHK青森の職員にとっては、学生に見られていることで現場に活気が出た

© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

「2016年度ワーキンググループ活動報告書」

3－2共育型インターンシップ（1）

NHK青森放送局インターンシップの状況

（ねぶた出陣前）PRのTシャツを着用

八甲田丸内を見学する様子

© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

3－2共育型インターンシップ（2）

（2）株式会社若山経営－1

実施概要

- 参加学生：青森中央学院大学経営法学部　2年生1名、3年生1名
- インターンシップ期間
  - 事前学習（ビジネスマナー研修）：2017年2月27日（月）
    - ✓ 参加学生に対し産業カウンセラーが実施（COC＋事業推進事務局）
    - ✓ 仕事との関り、ビジネスマナー、仕事に対する姿勢など、実技を伴う実践的講習を行った
    - ✓ 実施期間：2017年3月6日（月）～3月末までの4週間

- インターンシップ「テーマ」と内容
  - 魅力ある県内企業になるためには
    - ✓ 青森市内の中小企業の実態調査を行う
    - ✓ 企業側の課題や解決策について精査する
    - ✓ その課題についてどのような支援方法が有効か検討する
    - ✓ 魅力ある企業とはどのような企業か議論する
    - ✓ 魅力ある企業を学生に広報する有効手段は何か
    - ✓ 県内企業に就職する学生を増やすためには！

© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

「2016年度ワーキンググループ活動報告書」

3－2共育型インターンシップ（2）

（2）株式会社若山経営－2

企業訪問の様子

成果とまとめ

- 青森市内企業の実態調査を踏まえて、現実的な提案書の作成を行った
  - ✓ 現実に向き合い、受け入れ企業である若山経営との深いディスカッションにより、机上の空論ではない提案書の作成ができた

- インターン生の声
  - 県内企業の実態と魅力、地域での役立ちについて理解が進んだ
  - 受入れ企業の熱心さに感謝するとともに、地域の企業活動の深さと広さについて学ぶことができ将来の職業選択の幅が広がった
  - アルバイトとは異なり、業界・企業・仕事について全体的な理解ができた

- 受入れ企業の声
  - 最初は受け身であったが、次第に積極性が出てきて成長を実感できた
  - 訪問先の企業にとって、学生に説明する難しさ、同時に伝えることの大切さに気づくことができた
  - 学生に伝える、問題・課題意識を共有することは難しいが、それをすることで受け入れ企業側は成長することができると感じた

© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

3－2共育型インターンシップ（3）

（3）株式会社　青森テレビ－1

実施概要

- 参加学生：青森中央学院大学経営法学部　2年生1名、3年生3名

- インターンシップ期間
  - 事前学習（ビジネスマナー研修）：2017年2月27日（月）
    - ✓ 参加学生に対し産業カウンセラーが実施（COC＋事業推進事務局）
    - ✓ 仕事との関り、ビジネスマナー、仕事に対する姿勢など、実践的な実技を伴う講習を行った
    - ✓ 実施期間：2017年2月15日（水）～3月30日（木）
      - 第1クール：2017年2月15日（水）～21日（火）のうちの4日間
      - 第2クール：2017年2月27日（月）～3月7日（火）のうちの4日間
      - 第3クール：2017年3月21日（火）～30日（木）のうちの6日間

- インターンシップの内容
  - 夕方の情報ワイド番組【わっち!!】新年度のコーナーの企画・制作
  - 企画・制作を通じて、地域に暮らす多様な人達をよりよく「つなげる」仕組みを、ATVと一緒に創っていく

© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

「2016年度ワーキンググループ活動報告書」

3－2共育型インターンシップ（3）

（3）株式会社青森テレビ－2

インターン生への期待（インターシップ内容）

- 1週間目
  - テレビというメディアの仕組みを知る
  - 地方テレビ局の現状と使命を知る
  - ATVが目指すものを知る
  - 地域のニーズや情報を知る
  - 自分の役割を知る
- 2週間目
  - 【わっち!!】のコンセプト・課題・魅力を探る
  - ATVの課題・魅力を探る
- 3週間目
  - 【わっち!!】への提案をつくる
- 4週間目
  - 提案をブラッシュアップする
- ゴール・期待する役割
  - 具体的な番組コンテンツを提案する

「提案」検討中の様子

© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

3－2共育型インターンシップ（3）

株式会社青森テレビ－3

成果とまとめ

- 青森テレビの置かれている状況や地域での期待や役割を学生目線で理解し、SNSなどの新しいメディアを活用した番組コンテンツを提案
- 地域の多様な人達を「つなげる」「つながる」に挑戦する一歩を踏み出した

- インターン生の声
  - テレビ放送局というと華やかなイメージを持っていたが、番組を制作し伝え地域の支持を受け続けるには、地道なチーム努力が必要なことがわかった
  - 地域を元気にするは多様な人の集りからの情報発信による「つながり」が大切
  - “できる”、”できない”、”経験ある“・”なし“に関係なく挑戦でき成長を実感

- 受入れ企業の声
  - 当初はスムーズに進まなかったが、ゴールを共有するに従い思いがけない発想が生まれた
  - 学生に現状を説明することで、説明力が上がった
  - これまでの常識の囚われない学生の発想には、新しいヒントを得た

© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

3－2共育型インターンシップ（4）

（4）地域密着アクトⅠ・Ⅱ－1

実施概要

- 履修学生：青森中央学院大学経営法学部　3年生対象　後学期は10名選抜
- 導入の背景
  - ✓「消費者教育推進法」が2012年12月に施行され、消費者教育を総合的・一体的に進めることが求められている
  - ✓ 大学においても自立した社会人としての消費者教育、職業人としての生産者・サービス提供者の育成を行うことが必要である
  - ✓ 消費者教育推進法、青森県消費者協会との連携協定締結など、本学の消費者教育推進体制が整ったことで、消費者教育のアクティブラーニングを導入

- 授業期間と内容
  - ✓ 前学期は消費生活センター、金融広報アドバイザーなどの実務家による消費者問題の専門知識を講義形式で修得する
  - ✓ 後学期は消費者教育の実践者として、消費者教育関連教材開発、消費者教育セミナーなどに参加するなど、能動的に学修する
  - ✓ 学生が自ら学ぶことで、コミュニケーションスキル、情報リテラシー、問題解決力が身につくことが期待される（実際身についている）

© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

3－2共育型インターンシップ（4）

（4）地域密着アクトⅠ・Ⅱ－2

2016年度の外部活動

- 第52回　青森県消費者協会
  2016年11月9日（青森市福祉プラザ）
  - 履修学生が「悪徳商法を防ぐ」をテーマに青森県消費者大会でプレゼンテーションの実施

- 青森中央学院大学　金融リテラシー講演会
  2017年1月17日（本学フリースペース）
  - 履修学生が啓発教材の発表、若者向け啓発のラップを披露

- 大学生による消費者教育講座
  2017年2月12日（青森商業高校）
  - 昨年に引き続き本学学生が、青森商業高校で消費者教育講座を行った

第52回　青森県消費者協会の様子

金融リテラシー講演会の様子

大学生による消費者教育講座

© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

3－2共育型インターンシップ（5）

（5）地域探求アクトⅠ・Ⅱ－1

実施概要

- 履修学生：青森中央学院大学経営法学部　前学期2年生10名、後学期2年生6名
- 授業期間と内容
  - 前学期
    - ✓ 日本経済新聞社の「私の履歴書」の中から一人を選び、それを熟読し世の中の変化と合わせて“年表”を作成し分析を加える
      - 佐藤喜一郎、本坊豊吉、出光佐三、大野勇、佐藤貢、安藤百福、樫尾忠雄、中邨秀雄、大川博、伊藤雅俊
    - ✓ 自分史（祖父母の時代から）作成
      - 「私の履歴書」のように年表を作成し、節目になるエピソードを詳述
  - 後学期
    - ✓ 協力企業（青森県中小企業家同友会・会員企業の美容室ensoku.）
    - ✓ ensoku.髙橋代表を数回ほど訪問しインタビューを実施
    - ✓ インタビューをもとに、まず年表を作成しエピソードを抽出し“社史を作成
    - ✓ 先進事例として長野県駒ケ根市の企業ドメイン研究会を現地調査

- 一連の活動を通じ、経営環境の変化と適応、成功と失敗、挫折からの立ち直りなど多様な価値観や生き方の場面に触れ、困難に遭った時の“復帰力”を身につける

© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

3－2共育型インターンシップ（5）

（5）地域探求アクトⅠ・Ⅱ－2

成果とまとめ

- 自分以外の多様な生き方に触れ、多様な価値観を理解できた
- 祖父母や両親、協力企業へのインタビューにより、経験のバックグラウンドや年代の異なった人たちとのコミュニケーション力が向上
  - 自分史の作成により“自分語り”がうまくできるようになった

- 履修者の声
  - 自分の振り返り世代が上の人との語り合いにより、自分の価値をより理解できるようになった。また、戦争などの悲惨さについて実感的に理解できた
  - 地域に根差した企業人との深いインタビューにより様々な生き方を学んだ
  - 先進地の事例現地調査では、地域で働く生きがいの視点として、「地域・仕事・自分」という3つの軸足の大切さを学んだ

- 受入れ企業の声
  - 良い刺激を受けた。学生に話すことで人に伝える力がより高くなった
  - 社員が働くことにプライドを持つようになった
  - 学生ならではの新鮮な視点に触れることができた

© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

「2016年度ワーキンググループ活動報告書」

3－2共育型インターンシップ（5）

地域探求アクトの状況－先進地現地調査

- 駒ヶ根市では企業ドメイン研究会を20年にわたって実施している
- 企業ドメイン研究会では自社の歴史を分析し、自分たちの「企業ドメイン」を設定する
- 参加企業のうち数社は、自社の歴史の棚卸しをキッカケに“社史”を独自に作成している

地域の製造業の原点である製糸業のミュージアムを訪問

地域を代表する養命酒社を訪問

第20回企業ドメイン研究会の発表の様子

© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

3－3　共育型インターンシップ事前擦り合わせ

背景と目的

- 受け入れ企業（若山経営、青森テレビ）、大学（青森中央学院大学）が集まり、事前（直前）の擦り合わせを行った
- 企業と大学にそれぞれ経験とノウハウはあるものの、情報交換を行い問題意識やゴールを共有するためである

事前擦り合わせの様子

実施内容

- 講師
  - 若手のネットワークで岩手を盛り上げるNPO法人wiz
    専任コーディネーター・キャリアカウンセラー　八田浩希　氏
- 実際のインターンシップの進め方を実践的に半日かけて検討した（1月19日）
  - イントロダクション、実践型インターシップのポイントとは
  - プロジェクト事例紹介、その後、受け入れに向けた準備と心構えのワーク
  - 成果に向けた進捗管理手法、コメントワーク、まとめ、フリーディスカッション

実施後の感想

- 企業、講師のコーディネーター、大学が同じ目線で具体的な進め方を話し合い、「見える化」「見せる化」することで、インターンシップの基本を共有できた
- インターシップの事前（直前）擦り合わせは、“そもそも”に立ち返り有効であった

© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

3－4　今後の課題

スタート時の認識

- 大学や企業、地域にとっての負担が大きい（担当社員はかかり切りになる）
- 採用など目先の結果に結びつかず、企業にとり負担感だけが残る
- 単位取得など目先のことが目的になると、学生にとって学びにつながらない
- マンネリ化・お互いに要望を出しにくい
- 経済的理由によりアルバイトが必要で、中長期の時間がとれない学生が多い

現状認識

- 現在抱える問題はスタート時と大きくは変わらない
- しかし、現時点ではいくつかの進捗がある
  - 企業共育型インターンシップを実際に実施した
  - ガイドブックをはじめ各種事務手続きの書式等が整備された
  - 企業、学生双方に成果があった。とくに、アルバイトと共育型インターンシップの違いについての感想（できること⇔できないこと、部分⇔全体）

今後の課題

- 地域、企業と学生への浸透を図るため、学生も参加するフォーラム等の実施
- 今年度実施企業とは継続実施し、効率的なやり方を考え実行する
- ブロックを越えた情報共有と共育型インターンシップの仕組みづくり

© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

4. 今後の進め方

© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

今後の進め方

今後のスケジュール概要（案）

実施事項			2015年度		2016年度	2017年度												2018年度	2019年度
			企画立案（方向感）		試行錯誤による挑戦	プロトタイプ作成												整理と選択	モデル選定
			2月	3月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
学校行事・イベント			春休み							夏休み						春休み			
会議	教育プログラム委員会		19		2月に開催											○？		開催	開催
	W／G			9　23	6月3日、12月21日開催			○？		時期を見て2回開催予定				○？				適宜開催	適宜開催
イベント	共育型シンポジウム			3														未定	開催？
	COC+シンポジウム				弘前ブロックで実施													未定	開催？
	企業向け共育インターシップフォーラム			11	11月4日に実施					時期を見て開催								適宜開催	適宜開催
共育型インターンシップ	弘前B	地域共育型インターンシップ																継続	継続
		企業共育型企画提案・実施－1					今年度の振り返りを行い、協働で実施予定												
		企業教育型企画提案・実施－2																	
	八戸B	協働企業1					今年度の振り返りを行い、協働で実施予定											継続	継続
		協働企業2																	
	むつB	地域共育型企画提案							今年度の振り返りを行い、協働で実施予定									継続	継続
		協働企業1																	
	青森B	NHK青森放送局			実施（夏休み）			今年度の振り返りを行い、協働で実施予定										継続	継続
		青森テレビ			実施（春休み）														
		若山経営（青森市）			実施（春休み）														
		協働企業1					候補企業の選定と協働で実施予定												
		協働企業2																	
		協働企業3																	
		アクティブラーニング1（授業）																継続	継続
		アクティブラーニング2（授業）																	
		（青森中央学院大学）								前期・後期に開講予定									

実際の推進に当たって

- 青森Bは青森中央学院大学のCOC+推進チームと外部機関が連動して今後も実施
- W/Gの委員の方にはご協力企業の掘り起こしをお願い
- W/Gと外部機関が連動して各ブロックでの事例の情報集と解析を行う

© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

5. 参考資料

- 参考資料（添付）
  - 「共育型インターンシップ」
    学生と共に育つ企業のためのガイドブック

© 2016年度COC+共育型インターンシップW/G

文部科学省
地(知)の拠点

平成27年度採択　文部科学省
地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)
オール青森で取り組む「地域創生人財」育成・定着事業

共育型インターンシップ

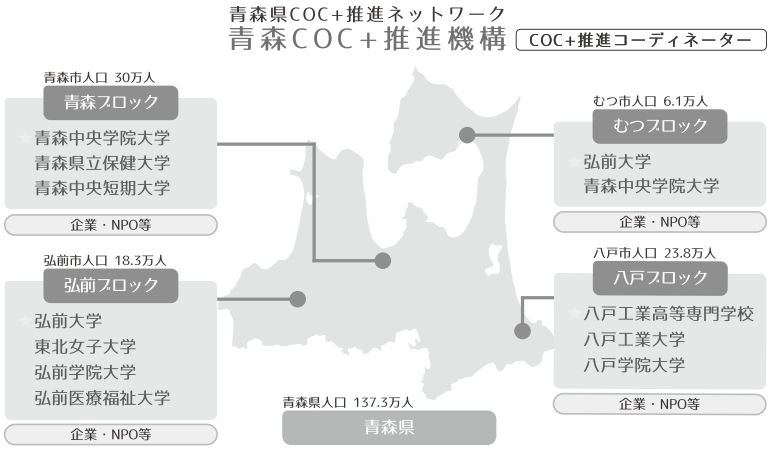
学生と共に育つ企業のためのガイドブック

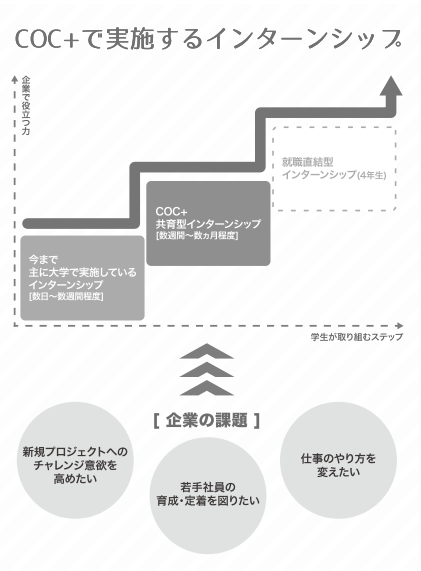
目次

COC+とは？ …… 4
インターンシップの種類 …… 5
共育型インターンシップの流れ …… 6
プロジェクト設計の手順 …… 7
プロジェクト設計 1～5 …… 8~12
事前準備チェックシート …… 13
Q&A …… 14

「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業COC+」とは

大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組に文部科学省が支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的としています。





事業協働機関の役割

大学
- 教育プログラムの開発と実践
- 学生起業の支援
- 大学発新産業の創出

地方公共団体
- 地域雇用の創出、創業・起業の支援
- アグリ・ライフ・グリーン・ツーリズム分野への成長政策

企業・NPO等
- 起業の魅力向上と若者への発信
- 学生のインターンシップ、起業支援
- 新商品・ビジネス開発

インターンシップの種類

	種類	特徴	学生の教育効果	企業のメリット	社会的意義
一般的なインターンシップ 数日～数週間程度	仕事理解型	職場や業務の見学と体験が中心	・適性・志向の理解 ・働くことの理解 ・業界の理解	企業・業界広報	学校から職場・社会への円滑な移行
	採用直結型	実際に一緒に働いてみてお互いを見極める採用活動の一環		採用マッチング	
共育型インターンシップ 数週間～数ヵ月程度	業務補助型	普通のアルバイトでは経験できないような企業の業務に取り組む	・社会人基礎力	若者を活用した業務の推進	将来の産業界を担う若者の育成
	課題協働型	課題発見や企画立案に取り組む	・社会人基礎力 ・学びの実践	若者の発想の活用 社内活性化	
	事業参画型	企業の一員として業務見取り組む	・社会人基礎力 ・リーダーシップ	若者を活用した新規事業などの推進	

社員ではないからこその視点や担えない役割が企業に新しい価値をもたらす

社員のモチベーションアップや人材育成スキルの向上

何も知らない学生の視点を活かしたアイデアで、営業・販路の拡大

共育型インターンシップの流れ

		具体的な実施事項	
Step. 1	**事前準備** **●プロジェクトの設計　●受入体制の整備** インターン生の力を存分に発揮させ、自社のメリットに結びつけるためには、準備が必要です。どんな仕事をどんな役割で担ってもらうか検討し、それをサポートする社内の体制について検討・準備するステップです。	○学生が本気でやりたいと思うプロジェクトを設計する。 ○インターン生の面倒を見る担当者を決める。 ○募集のための募集ツールを作成する。	企業 大学
Step. 2	**募集と選考** **●募集開始　●書類選考と面接** 採用やアルバイトの募集・選考とは違い、インターンでは、期間限定でパフォーマンスを発揮してもらう必要があります。担ってもらう役割を意識してもらうような質問を設定し、学生のやる気とポテンシャルを判断します。	○募集ツールでインターン生の募集をする。 ○選考する。 ※インターンで担ってほしい業務と志望動機にずれがないか、必要な能力がある程度あるか判断する。	企業 大学
Step. 3	**オリエンテーション**　採用 **●オリエンテーション** 採用決定後、スムーズに仕事に取り組んでもらうために、期待する役割や担ってもらう仕事について、お互いに共有するステップです。契約や社内ルールもここで確認します。	○共有シートを作成する ○必要書類(覚書・処遇概要確認書・誓約書)を作成する ※P13事前準備チェックシート参照	企業 大学
Step. 4	**インターン実施** **●学生のフォロー** 設計や準備を十分にしても、最初から最後まで問題なく、大きな成果を出す学生はほとんどいません。必ずぶつかる壁。しかしそれは若者が大きく成長する機会でもあります。どうやって壁を乗り越えさせていくか、適宜適切なフォローが重要です。	○担当社員が常にフォローする。 ※成功体験の仕掛けづくり ※適宜目標の確認と設定をする ※進捗状況を毎日確認する	企業 大学
Step. 5	**修了面談と次への行動へ** **●振り返り** 修了後の振り返りは、学生にとっては勿論ですが、受入企業にとっても大きな学びをもたらします。貴重な外部の意見や視点を得る場でもあり、社内人材教育の大きなノウハウにもなるからです。	○修了報告会を実施する。 ○修了面談をする。 ※会社にとっての成長や、学生に対しての評価をきちんと伝える。	企業 大学

プロジェクト設計の手順

プロジェクト設計とは？	経営革新にかかる試行錯誤や仮説検証のための戦略的な取組み

プロジェクト設計-1

「なぜやるのか?」を明確にする

インターン生に何を期待するか

挑戦したいことを言葉にする

プロジェクト設計-2

課題と解決のための仮説を確認する

どうすれば実現できるのか

現状とのギャップ＝課題を確認する

プロジェクト設計-3

仮説検証の繰り返しが必要なプロセスを洗い出す

インターン生が取組む必要がある事か?

内部資源を投入できないものか確認する

プロジェクト設計-4

期間を区切り明確な成果目標を設定する

インターン生が達成したくなる目標か?

成果目標を設定し、達成するまでに、やるべきことを細分化し、おおまかな達成仮説をたてる

プロジェクト設計-5

具体的な活動内容と期待する役割を設計する

インターン生に何を期待するか

プロジェクトを達成するためには、どれくらいの期間で、どんな業務が必要か具体的に設計する

プロジェクト設計-1

経営者が本気で挑戦したいことを確認する

Sheet. 1

それは、社会にとってどんな価値が有ることか？

それは、学生が「一緒に実現したい！」と思える事か？

どれくらい本気？

こんな風にやったらうまくいくと思っている or こんな準備を始めている

プロジェクト設計-2

課題と解決のための仮説を確認する

Sheet. 2

ビジョン・将来像	

	課題	仮説(こうやればうまくいくかも)	1年後のゴール
市場・顧客創造 ・テストマーケティング ・関係性構築 ・ブランド強化 …等			
業務改善 ・品質向上 ・商品開発 ・生産性向上 …等			
人材育成 ・組織風土 ・チームワーク ・リーダーシップ ・ビジョン・戦略の浸透 …等			

現状

プロジェクト設計-3

仮説検証の繰り返しが必要なプロセスを洗い出す

Sheet. 3

1年後までに実現したいこと	だれがやる？
	☑ 現在の社員 ☑ 新しい社員／育った社員 ☑ 外部の事業者 ☑ インターン生
	☑ 現在の社員 ☑ 新しい社員／育った社員 ☑ 外部の事業者 ☑ インターン生
	☑ 現在の社員 ☑ 新しい社員／育った社員 ☑ 外部の事業者 ☑ インターン生
	☑ 現在の社員 ☑ 新しい社員／育った社員 ☑ 外部の事業者 ☑ インターン生

プロジェクト設計-4

期間を区切り、明確な成果目標を設定する

Sheet.4

１年後までにインターン生を活用して実現したいこと

さらに細分化

最初の4週間	3ヵ月後	6ヵ月後

４週間で達成すべき成果目標

インターン生が達成したくなる目標？

- 11 -

プロジェクト設計-5

具体的な活動内容と期待する役割を設計する

Sheet.5

期待する役割

役割

４週間目	
３週間目	
２週間目	
１週間目	１． ２． ３． ４． ５．

- 12 -

事前準備チェックシート

1 受入前の必要書類の整備

- ☑ 覚書
- ☑ 処遇概要確認書
- ☑ 誓約書

2 受入体制のチェックポイント

事前社内共有

- ☑ インターン生受入の目的は社内で理解されていますか
- ☑ インターン生に期待する成果、権限、達成期限は明確になっていますか

社内体制とコミュニケーションの方法

- ☑ 業務指導担当者は決まっていますか
- ☑ 業務とは関係ない相談役は決まっていますか
- ☑ インターン生からの報告、連絡、相談の方法は決まっていますか

環境整備

- ☑ 活動支援金や交通費支援がある場合、金額、支払い方法と日時は確定していますか
- ☑ 使用する机、パソコン、メールアドレス、名刺などについて準備はできていますか
- ☑ インターンシップ保険等の加入や機密保持契約、個人情報保護対策など、発生するリスク対策はできていますか

インターンシップ受入にあたってのQ&A

Q アルバイトと何が違うの？

A インターン生は大学では学べない経験と成長を目的にやってきます。お金が目的ではなく、社長の実現したいことに共感してやってきます。
アルバイトとは学生が企業に求めることも違ってきます。

Q サポートが大変そう…

A 確かにサポートとその都度のフォローが必要です。
期間限定の社員として扱うことが大事です。指導により学生を軌道にのせ、小さな成功体験を積ませて自信をつけさせる。そして、責任と期待を負わせ、壁を超えるところまで導くことができれば、インターン生の成長が、そのまま会社の成長につながるはずです。人材育成のスキル向上にも役立ちます。

Q 中小企業に学生が来るの？

A 大企業は組織が大きすぎて意識の高い学生の期待に答えられる場になっていないことが多いのが実状です。逆に人手が不足している中小企業は学生が活躍できる場がたくさんあるというふうに考えることができます。

出典：経済産業省「成長するためのインターンシップ活用ガイド」（一部加筆修正）
P5.「インターンシップの種類」
P6.「共育型インターンシップの流れ」

出典：中小企業庁「平成２６年度地域人材コーディネーター養成等事業」
Sheet.1～Sheet.5

発行日　平成28年3月

発　行　**青森COC+推進機構（青森ブロック）**
事務局：青森中央学院大学　COC+事業推進事務局
〒030-0132　青森市大字横内字神田12
TEL：017-728-8161(直通)　FAX：017-738-8333(代)
E-mail：acgu-coc@aomoricgu.ac.jp

制作協力　NPO法人プラットフォームあおもり

ALL
AOMORI
COC+

平成27年度採択　文部科学省　地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）
オール青森で取り組む「地方創生人財」育成・定着事業

発　行　日	平成29年3月
発　　行	青森COC+推進機構 （共育型インターンシップワーキンググループ）
事　務　局	青森中央学院大学COC+事業推進事務局 〒030-0132　青森市大字横内字神田12 TEL　017-728-8161（直通）　FAX　017-738-8333 E-mail：acgu-coc@aomoricgu.ac.jp